

COLOR SENSE

色がみちびく、現代美術の世界

2025年度長野県立美術館移動展 in 中川村

2025.10.18 *sat.*
— 11.10 *mon.*

長野県立美術館では、1966（昭和41）年の開館以来、郷土にゆかりのある美術家たちの作品を中心に収集、公開してきました。そのコレクションをより多くの方にご覧いただくために、1979年から県内各地で「移動展」を開催しています。

本年はアンフォルメル中川村美術館にて開催し、「COLOR SENSE」をテーマに、長野県立美術館が近年収蔵した1950～80年代に制作された長野県ゆかりの現代美術作品を中心にご紹介します。

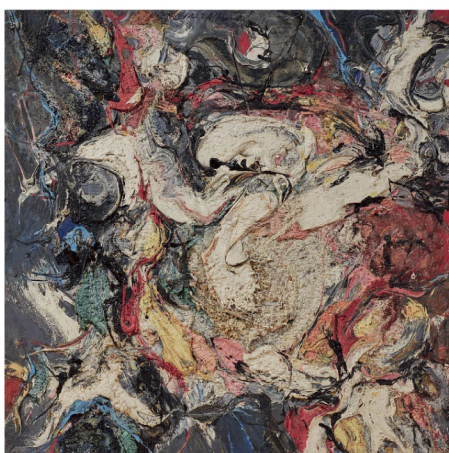
小松良和（現・伊那市出身）、堀内袈裟雄（長野市出身）、松澤宥（下諏訪町出身）は、絵画のありかたを問うなかで同時代のアメリカで展開されたアートシーンの影響も受けました。色を物質として所在させようとした小松、絵具の重なりによって画面を構築する堀内。松澤は、オブジェを消滅させる前段階として観念の自由を希求するなかで、非感覚的な絵画へと向かいます。画面上の豊かな色彩にあらわれたそれぞれの思索を、作品や資料から読み解きます。



小松良和《Landscape '84 気流の音》1984年
アクリル、アルミ粉・カンヴァス 162.1×390.9cm
個人蔵（長野県立美術館寄託）



松澤宥《プサイの鳥》1959年
パステル、クレヨン、蝋、かまどの
スミ、灰・紙 108.0×76.0cm
個人蔵（長野県立美術館寄託）



堀内袈裟雄《泉の極智象 B》1962年
油彩ほか・板 122.2×122.2cm
長野県立美術館蔵

同時開催（アトリエ棟）

スペクトルー 交差する表現

詩や絵画から観念美術に
転じた松澤宥、短命なが
ら表現の間を駆け抜けた
小松良和。

建築家・毛綱毅曠が、中
国の古くからの思想や宇
宙論などを織り込んだ異
形の空間で、交差する二
つの表現をご覧ください。



小松良和《ドローイング》1984年
長野県伊那北高等学校同窓会蔵

アートトーク

北澤一伯（彫刻／パフォーマンス）

2025年10月19日（日）13:30～14:30

○参加無料 ○定員なし

○申し込み不要（上記日時に会場までお越しください）

※お問い合わせは、
アンフォルメル中川村美術館 0265-88-2680まで。

ギャラリートーク

学芸員（長野県立美術館）が展示作品について
解説を行います。

2025年10月26日（日）13:30～14:00

○参加無料 ○定員なし

○申し込み不要（上記日時に会場までお越しください）

※お問い合わせは、長野県立美術館 026-232-0052まで。

アンフォルメル中川村美術館

〒399-3801 長野県上伊那郡中川村大草 2124

【車をご利用の場合】

中央自動車道「駒ヶ根IC」から30分
「駒ヶ岳SIC」および「松川IC」から25分

【公共交通機関をご利用の場合】

JR飯田線「飯島駅」からタクシーで20分
「伊那大島駅」からタクシーで25分



長野県立美術館
企画展情報

東山魁夷館開館35周年記念展
東山魁夷 永遠の海 ― 私は、いま、波の音を聴いている
2025年10月4日（土）～11月16日（日）